

がん検診を受けましょう

がん(悪性新生物)は昭和56年以來、日本人の死因の1位となつています。年々、その数も増加し、平成20年のがんの死亡者は34万2849人、3人に1人はがんで死亡されたこととなります。

どれくらい増えているか、約20年前と比較してみましよう。

表1 昭和60年部位別がんの死亡順位

	1位	2位	3位	4位
男性	胃がん 30,146※	肺がん 20,837	肝臓がん 13,780	大腸がん 10,112※ ₂
女性	胃がん 18,756	大腸がん 8,926	肺がん 7,753	肝臓がん 5,192

表2 平成20年部位別がんの死亡順位

	1位	2位	3位	4位
男性	肺がん 48,612※	胃がん 32,953	大腸がん 23,409※ ₂	肝臓がん 22,329
女性	大腸がん 19,589	肺がん 19,235	胃がん 17,182	乳がん 11,795

保健衛生ニュース平成21年6月15日号より

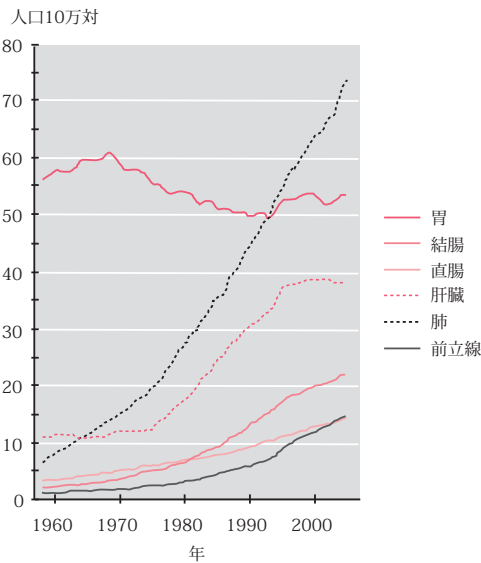
※年間死亡者数

※₂:大腸がんは結腸がんと直腸がんを合わせたもの

表1は昭和60年の部位別がんの死亡順位で、下段は死亡者数です。表2は、平成20年のものです。増加が明らかながんが分かると思っています。また、図1は男性、図2は女性の各部位別の死亡率(人口10万対)の推移です。男性では、肺がん・肝臓がんの増加が著しく、胃がんは緩やかな減少

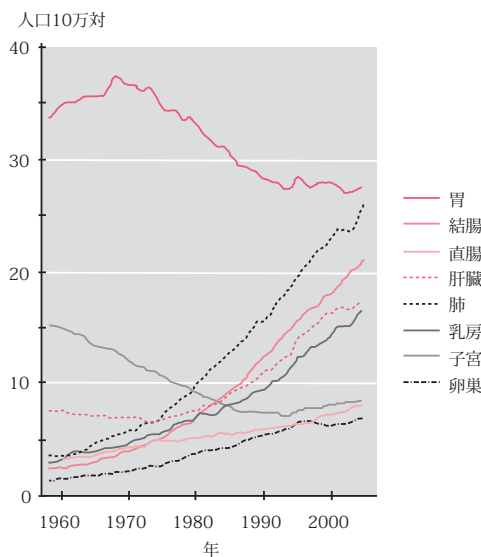
●部位別がん粗死亡率の推移(主要部位) 1958年～2005年

●図1: 男性



が見られます。女性では、肺がん・乳がん・大腸がんの増加が著しく、胃がん・子宮がんは緩やかな減少が見られます。その背景には、豊かな生活がもたらす生活習慣の乱れ、運動不足があります。栄養価の高い食事やし好品の充実、交通手段の発達など……。また、医学の進歩もその一因にあると思われる。昔に比べ、受診される患者さんが増えたことによりがんが発見される確率が高くなったためです。一方で医学の進歩により、検診で早期発見も可能になったもの、予防までできるようなったものがあります。

●図2: 女性



町では、がんの早期発見・予防のために、がん検診を行っています。多くの方々に受診していただき、皆さんの健康増進につながればと願っています。今年度の検診も残り少なくなっています。詳細については、お問い合わせください。



問い合わせ先
保健センター健康館すこやか
おおほる
☎(444)2714

資料: 国立がんセンター がん対策情報センター